



平成 27 年 12 月 15 日

各 位

上場会社名 クラボウ（倉敷紡績株式会社）  
代表者 取締役社長 藤田 晴哉  
（コード番号 3106）  
問合せ先責任者 執行役員 経理部長  
藤井 裕詞  
（TEL 06-6266-5136）

（訂正）「平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について

平成 22 年 11 月 9 日に開示いたしました表記開示資料につき訂正がありましたのでお知らせします。

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、平成 27 年 12 月 15 日付「平成 28 年 3 月期第 2 四半期決算短信の提出及び過年度の決算短信等の訂正並びに有価証券報告書等の訂正報告書の提出に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は、\_\_\_\_\_線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、訂正箇所を含め訂正後のみ全文を記載しております。また、表示単位未満の数値を訂正している場合においても、\_\_\_\_\_線を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月9日

上場会社名 クラボウ(倉敷紡績株式会社) 上場取引所 東 大  
コード番号 3106 URL <http://www.kurabo.co.jp/>  
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 井上 晶博  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理部長 (氏名) 斎藤 利明 TEL 06-6266-5130  
四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日  
配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	69,625	4.5	1,404	92.9	1,417	77.6	2,780	—
22年3月期第2四半期	66,620	△22.1	728	△45.5	798	△53.6	204	△49.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	12.14	—
22年3月期第2四半期	0.89	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	168,267	80,937	45.2	331.61
22年3月期	170,682	82,411	45.3	337.77

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 75,980百万円 22年3月期 77,393百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	139,000	3.5	2,500	34.2	2,300	12.0	3,500	△36.0	15.28

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 ー 社（社名）、除外 ー 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 246,939,284株 22年3月期 246,939,284株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 17,815,585株 22年3月期 17,808,563株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 229,126,879株 22年3月期2Q 229,149,954株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、【添付資料】P. 3「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) セグメント情報 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）のわが国経済は、政府の景気対策効果やアジアを中心とした海外の景気が底堅く推移したことにより、企業収益の改善が進み、個人消費も持ち直し基調を維持するなど、緩やかながら景気回復傾向が持続しました。しかし、夏以降の円高の影響を受け、景気回復のペースは徐々に鈍化しました。

当社グループの主力である繊維部門が属する天然繊維業界におきましては、消費者の低価格志向の定着、衣料品需要の低迷に加え、原綿価格の高騰によるコストアップ、円高による輸出環境の悪化などきびしい状況が続きました。

非繊維部門の主要販売先である自動車業界は、エコカー補助金効果などにより国内新車販売台数は好調に推移しました。また住宅関連業界では、新設住宅着工戸数は持ち直し傾向にあるものの、雇用・所得環境に改善がみられないなか、低い水準での推移に止まりました。

このような情勢下、当社グループは、4月より新たな成長戦略である3カ年の新中期経営計画「総意・総力（SS）'12」をスタートし、国内を中心とした既存事業の収益改善に取り組むとともに、海外市場を含む新市場及び新たな需要の開拓、当社グループ独自の技術力・営業力を生かした高付加価値商品やサービスの開発に注力しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は69.6億円（前年同期比4.5%増）、営業利益は1.4億円（同92.9%増）、経常利益は1.4億1千万円（同77.6%増）となりました。

なお、特別利益に固定資産売却益2.0億1千万円を計上したことなどにより、四半期純利益は2.7億8千万円（前年同期は四半期純利益2億円）となりました。

また、当社グループは、将来の業容拡大に向けた施策として、国内繊維子会社3社を事業統合した㈱クラボウインターナショナルの設立、また海外では、バングラデシュでの合弁事業として現地縫製新会社「MKアパレルズ㈱」への出資、自動車向けウレタンモールド製品製造のブラジル現地法人「クラシキ・ケミカル・プロダクツ・ド・ブラジル㈱」の設立を行い、さらには工作機械製造の台湾現地法人「台湾倉敷機械股份有限公司」の設立を決定するなど、事業の再編と拡大を推進しました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (繊維事業)

国内天然繊維業界は、消費低迷に加え、原綿相場の高騰による原料高によりきびしい環境で推移するなか、原糸分野はグローバルな生産・販売体制を強化したことにより堅調に推移し、ユニフォーム分野も受注回復傾向にありました。一方、デニムやカジュアル向けの衣料品素材分野がファストファッションブームの影響を受け、低調に推移しました。

海外子会社におきましては、ブラジルでの市況回復と中国でのデニム事業の輸出拡大により順調に推移しました。

この結果、売上高は36.8億円、営業利益は3千万円となりました。

#### (化成事業)

自動車内装材向け軟質ウレタンフォームは、エコカー補助金制度終了前の駆け込み需要などにより堅調に推移し、半導体関連商品も設備投資の回復により業績が改善しました。

また、住宅建材分野は、住宅着工の低迷が続くなか、断熱商品が新規顧客開拓により好調に推移しました。

この結果、売上高は21.1億円、営業利益は4億6千万円となりました。

#### (不動産活用事業)

国内景気の低迷により不動産業界全般がきびしい状況にあるなか、引き続き賃貸事業の推進に注力しましたが、倉敷チボリ公園跡地の返還を受けたこと及び旧枚方工場跡地の売却に伴う賃貸料の減少により、売上高は2.7億円、営業利益は1.1億8千万円となりました。

なお、倉敷チボリ公園跡地につきましては平成21年8月に㈱イトーヨーカ堂を、また旧岡山工場跡地につきましては同年11月に医療法人社団十全会を開発の事業主体に決定し、それぞれ順調に開発が進んでおります。

#### (工作機械事業)

主力の横中ぐりフライス盤は、米国向けが回復傾向にあったものの、国内及びアジアを中心とした海外向けが引き続き低迷したことにより、売上高は1.8億円、営業利益は3千万円となりました。

#### (エレクトロニクス事業)

コンピュータ・カラーマッチング・システムや赤外線計測システムは堅調でしたが、三次元写真計測システムは低調に推移しました。

この結果、売上高は1.9億円、営業損失は7千万円となりました。

(その他の事業)

エンジニアリング事業は、半導体業界向け製造関連設備は設備投資の持ち直しにより回復基調をたどりましたが、ガス処理装置や水処理装置及びバイオマスボイラーは低調でした。

バイオメディカル事業は、細胞製品は製薬・化粧品業界を中心に堅調でしたが、核酸分離装置や画像解析装置及び受託解析サービスは低調でした。

食品事業は、主力の即席めん具材が需要回復傾向にあり、健康食品の売上げも伸びたことに加え、全般的なコスト削減を行った結果、業績は堅調に推移しました。

この結果、その他の事業の売上高は49億円、営業利益は1億9千万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、株価下落による評価差額の減で投資有価証券が減少したことなどにより、1,682億円と前連結会計年度末に比べ24億円減少しました。

負債は、固定負債の「その他」に含まれている繰延税金負債が減少したことなどにより、873億円と前連結会計年度末に比べ9億円減少しました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が減少したことなどにより、809億円と前連結会計年度末に比べ14億円減少し、自己資本比率は0.1ポイント低下して45.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4億4千万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には197億3千万円（前年同期末は148億8千万円）となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、37億3千万円（前年同期比5千万円増）となりました。これは、減価償却費の内部留保29億4千万円があったことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、10億7千万円（前年同期比12億7千万円増）となりました。これは、有形及び無形固定資産の売却による収入20億4千万円があったものの、有形及び無形固定資産の取得による支出16億9千万円、投資有価証券の取得による支出8億2千万円があったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、20億円（ほぼ前年同期並み）となりました。これは、配当金の支払額11億4千万円や長期借入金の返済による支出6億7千万円などによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成22年8月6日に公表した業績予想を修正いたしました。

なお、詳細は、本日別途開示の「平成23年3月期第2四半期連結累計期間業績予想数値と実績値との差異及び通期連結業績予想数値の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

##### 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

##### 税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益(損失)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ・会計処理基準に関する事項の変更

##### ①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は、98百万円減少しております。

##### ②「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これによる損益に与える影響はありません。

##### ③企業結合に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

#### ・表示方法の変更

##### (四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,762	20,425
受取手形及び売掛金	<u>34,160</u>	<u>32,862</u>
有価証券	335	335
商品及び製品	<u>10,575</u>	<u>10,951</u>
仕掛品	6,093	5,673
原材料及び貯蔵品	4,979	4,429
その他	<u>4,845</u>	<u>3,951</u>
貸倒引当金	<u>△193</u>	<u>△187</u>
流動資産合計	<u>81,558</u>	<u>78,441</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,261	28,959
その他（純額）	26,201	27,166
有形固定資産合計	<u>54,463</u>	<u>56,125</u>
無形固定資産	1,589	1,655
投資その他の資産		
投資有価証券	25,368	29,047
その他	<u>5,735</u>	<u>5,902</u>
貸倒引当金	<u>△447</u>	<u>△490</u>
投資その他の資産合計	<u>30,656</u>	<u>34,459</u>
固定資産合計	<u>86,709</u>	<u>92,240</u>
資産合計	<u>168,267</u>	<u>170,682</u>



(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,544	19,017
短期借入金	23,390	23,615
未払法人税等	302	335
賞与引当金	1,217	1,177
事業構造改善引当金	511	558
その他	7,207	7,429
流動負債合計	53,174	52,134
固定負債		
長期借入金	4,128	4,358
退職給付引当金	7,525	7,405
役員退職慰労引当金	607	775
長期預り敷金保証金	16,499	16,496
その他	5,395	7,101
固定負債合計	34,156	36,137
負債合計	87,330	88,271
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	22,040	22,040
資本剰余金	18,257	18,257
利益剰余金	44,819	43,184
自己株式	△3,256	△3,255
株主資本合計	81,860	80,226
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,681	5,294
繰延ヘッジ損益	△65	14
為替換算調整勘定	△8,495	△8,142
評価・換算差額等合計	△5,880	△2,832
少数株主持分	4,957	5,017
純資産合計	80,937	82,411
負債純資産合計	168,267	170,682

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	66,620	69,625
売上原価	56,340	58,283
売上総利益	10,280	11,341
販売費及び一般管理費	9,552	9,936
営業利益	728	1,404
営業外収益		
受取利息	104	113
受取配当金	345	336
持分法による投資利益	—	1
その他	169	228
営業外収益合計	619	679
営業外費用		
支払利息	342	316
持分法による投資損失	15	—
その他	191	350
営業外費用合計	549	666
経常利益	798	1,417
特別利益		
固定資産売却益	13	2,011
特別利益合計	13	2,011
特別損失		
投資有価証券評価損	84	468
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	98
減損損失	38	—
その他	14	—
特別損失合計	137	567
税金等調整前四半期純利益	674	2,862
法人税等	337	31
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,830
少数株主利益	132	50
四半期純利益	204	2,780

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	674	2,862
減価償却費	3,166	2,944
減損損失	38	—
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△778	△41
貸倒引当金の増減額(△は減少)	38	△23
受取利息及び受取配当金	△449	△450
支払利息	342	316
為替差損益(△は益)	△91	△37
持分法による投資損益(△は益)	15	△1
有形及び無形固定資産売却損益(△は益)	△15	△2,027
有形及び無形固定資産除却損	48	40
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	3	△5
有価証券及び投資有価証券評価損益(△は益)	86	468
売上債権の増減額(△は増加)	1,002	△1,483
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,856	△786
仕入債務の増減額(△は減少)	305	1,635
預り敷金及び保証金の増減額(△は減少)	16	510
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△1,132	△46
その他	△1,338	△271
小計	3,787	3,603
利息及び配当金の受取額	408	466
利息の支払額	△282	△241
法人税等の支払額	△230	△89
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,681	3,738
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	△341	106
有価証券の償還による収入	350	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,146	△1,690
有形及び無形固定資産の売却による収入	185	2,049
投資有価証券の取得による支出	△346	△821
投資有価証券の売却による収入	—	23
投資有価証券の償還による収入	—	400
貸付けによる支出	△8	△0
貸付金の回収による収入	15	2
関係会社株式の取得による支出	△53	△773
その他	1	△369
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,344	△1,073

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	53	△15
長期借入れによる収入	700	440
長期借入金の返済による支出	△949	△670
自己株式の取得による支出	△3	△1
自己株式の売却による収入	0	0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△4	△14
配当金の支払額	△1,142	△1,141
その他	△653	△601
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,000	△2,004
現金及び現金同等物に係る換算差額	400	△217
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△263	443
現金及び現金同等物の期首残高	15,146	19,295
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,883	19,739

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	繊維事業 (百万円)	化成品事業 (百万円)	不動産活用事業 (百万円)	工作機械事業 (百万円)	エレクトロニクス事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	<u>36,591</u>	17,286	3,145	2,946	1,602	5,047	<u>66,620</u>	—	<u>66,620</u>
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	7	2	127	—	4	192	334	(334)	—
計	<u>36,599</u>	17,288	3,273	2,946	1,607	5,240	<u>66,955</u>	(334)	<u>66,620</u>
営業利益又は営業損失(△)	<u>△486</u>	△156	1,523	440	△108	89	<u>1,301</u>	(573)	<u>728</u>

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している売上集計区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品等

- (1) 繊維事業……………綿・合繊・羊毛その他各種素材の繊維製品
- (2) 化成品事業……………ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品
- (3) 不動産活用事業……………不動産の賃貸、ホテル・レストラン・ゴルフ練習場・自動車教習所の経営
- (4) 工作機械事業……………工作機械、産業機械
- (5) エレクトロニクス事業…情報システム機器、検査・計測システム
- (6) その他の事業……………環境制御等の機器・装置、バイオ関連製品、真空凍結乾燥食品、食料品・日用品・土産物等の小売販売

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	<u>58,567</u>	6,069	1,983	<u>66,620</u>	—	<u>66,620</u>
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	578	2,669	1	3,249	(3,249)	—
計	<u>59,146</u>	8,738	1,985	<u>69,870</u>	(3,249)	<u>66,620</u>
営業利益	<u>1,102</u>	127	3	<u>1,233</u>	(505)	<u>728</u>

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域は、次のとおりであります。

- (1) アジア……………中国、タイ、インドネシア
- (2) その他の地域……………ブラジル、米国

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	アジア	その他の地域	計
I. 海外売上高（百万円）	13,790	3,373	17,164
II. 連結売上高（百万円）			<u>66,620</u>
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	<u>20.7</u>	<u>5.1</u>	<u>25.8</u>

- (注) 1. 国又は地域の区分の方法は、地理的近接度によっております。  
 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域は、次のとおりであります。  
 (1) アジア……………中国、タイ、インドネシア  
 (2) その他の地域………ブラジル、米国  
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業部（又は責任部）を、また工作機械事業については連結子会社を設置し、これらの事業部等は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは、事業部等を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「繊維事業」、「化成品事業」、「不動産活用事業」、「工作機械事業」及び「エレクトロニクス事業」の5つを報告セグメントとしております。

「繊維事業」は、綿・合繊・羊毛その他各種素材の繊維製品等の製造・販売を行っております。「化成品事業」は、ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品等の製造・販売を行っております。「不動産活用事業」は、不動産の賃貸、ホテル・レストラン・ゴルフ練習場・自動車教習所等の経営を行っております。「工作機械事業」は、工作機械等の製造・販売を行っております。「エレクトロニクス事業」は、情報システム機器、検査・計測システム等の製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

	報告セグメント						その他の事業 (注)1 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注)2 (百万円)	四半期連結損益計算書計上額 (注)3 (百万円)
	繊維事業 (百万円)	化成品事業 (百万円)	不動産活用事業 (百万円)	工作機械事業 (百万円)	エレクトロニクス事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高										
外部顧客への売上高	36,898	21,123	2,786	1,886	1,981	64,676	4,949	69,625	—	69,625
セグメント間の内部売上高又は振替高	8	28	55	—	18	110	187	298	△298	—
計	36,906	21,151	2,841	1,886	1,999	64,786	5,137	69,924	△298	69,625
セグメント利益又は損失(△)	36	468	1,182	34	△71	1,649	191	1,841	△436	1,404

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング事業、バイオメディカル事業、食品事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△436百万円には、全社費用△523百万円及びその他の調整額86百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。